

倉梯幼稚園 研究指定園研修



平成30年4月より新保育所保育指針、新幼稚園教育要領が施行され、新たな乳幼児教育の方向性が示されました。指針・要領について、理解を深め、実践にいかしていくために、今年度は、倉梯幼稚園を研究園に指定し、園内研修や公開保育等を実施するとともに、市内の保育者・教員が互いに学び合う研修の機会を創出しました。

倉梯幼稚園では、研究指定園として、子どもを主体とした遊びや活動、そのための環境構成、子どもの姿を見とるための記録等の園内研修を通じて、幼稚園教育要領に示された新たな乳幼児教育を学び、実践に取り組んでいます。

指定園研究につきましては、神代 千恵子先生(幼児教育アドバイザー・元公立幼稚園長・元養成校講師)にご指導いただきました。

研究の方法と経過

【研究の方法】

(1)園内研修・研究

- ①講師による指導
 - ・保育参観
 - ・保育カンファレンス
 - ・記録について

②乳幼児教育コーディネーターによる園内研修

- ・「子どもを主体とした保育」について
 ～新幼稚園教育要領より～
- ・記録について

(2)公開保育

- ・当日の指導案の作成
- ・グループワーク・カンファレンス



【経過】

日程	内容	講師他
5月14日	○「子どもを主体とした保育」について ～新幼稚園教育要領より～	乳幼児教育コーディネーター
6月8日	○保育参観 ○保育カンファレンス	講師 神代 千恵子先生
6月15日	○記録について	乳幼児教育コーディネーター
8月3日	○保育参観 ○保育カンファレンス ○各クラスの記録について	講師 神代 千恵子先生
10月12日	○保育カンファレンス ○公開保育の指導案について	講師 神代 千恵子先生
10月26日	○公開保育・グループワーク、カンファレンス	講師 北野 幸子 先生 神代 千恵子 先生
12月7日	○保育参観 ○保育カンファレンス	講師 神代 千恵子 先生
12月14日	○研究指定園公開保育の振り返り	乳幼児教育コーディネーター

実践研究まとめ

～講師による指導・助言より～

1. 子どもの主体性を育む遊び・活動

【環境】

◎玩具や教材の置き方については、発達や子どもの興味・関心をもとに考えて整えていき、「ねらい」や「意図」を持ち、量にも配慮していく。

・例えば、「お店屋さんごっこやままごとなど、3、4、5歳児が全く同じ遊び、同じ玩具を置くのではなく、年齢発達に応じて、どこに『ねらい』があるのかを考え環境を構成することが大切。

・子どもが遊ばなくなってきた時には、なぜ遊びが停滞するのか、子どもの様子を見ながら環境を足したり、一旦片付けるなどしてみる。全く別のものにする場合、保育者が一方的に押しつけるのではなく、「こんなものがあるよ」「これはどう？」と提案することを大事にしていく。物があすぎるのもよくないため、加減しながら環境を整えるようにしていく。

・ラQやブロックなどで子どもが作った物を置くスペースと、作りかけのものを置くスペースは別にする。



・木片遊びは、何のために金槌で釘を打つかという必然性を持てるよう、「木ってどうやってくっつけるのかな～?」「木と木をくっつけて何をつくるの?」と子ども達に問いかけていく。金槌を使う必然性を感じ、期待を持つことで遊びが楽しくっていく。

・木片遊びの材料としては、様々な大きさや形の木を用意するようにする。力が入りやすいように、地面や床に板などを置いた上で金槌を使えるよう環境を整えていく。

・製作遊び等は、「何がいるかな?」と子どもと

一緒に素材や道具を考えたい。保育者は子どもの遊びの方向を予測しながら準備をする(木、段ボール、箱等)

例)段ボールでのお家作り→ごっこ遊び→食べ物作りなどへ発展してもよい。

・(3歳児は)年齢発達から、「○○したい」「もっとしたい」と興味・関心を持ち、十分に対象に関わる経験ができるよう、時間や場所の保障をしていくと共に、繰り返し試したり、遊んだりできるような素材や道具などを工夫していく。

・静と動の遊びのエリアを仕切るためのパーテーションは、常に閉めておくのではなく、その日の意図や、子どもの様子に合わせて閉めたり開けたりしていく。



実践研究まとめ つづき ～講師による指導・助言より～

きっかけやスタートは、子どもが主体であり、子どもの興味や関心を見逃さないことを大事にしていく



【保育者の関わり】

◎子どもの遊びの中から興味・関心をさぐり、子どもと話し合いながら、子どもがしたい、やりたいと思えるように、一緒に生活を作っていくことを大切にする。

・どんな子どもに育ててほしいか、保育者が大事に思っているところは何かなど、年齢に応じた願いを持って関わっていくことを大切にすること。

・色々な遊びをする中で、一人一人の子どもがどんな事をしているのか、何に興味を持っているのかをしっかりと見ていくことを大切にすることが重要。

・なぜ、その遊びをしているのか、子どもの興味・関心を見極めていく。

例)色水遊びなどは、チューリップの花びらを集めることや球根を抜く経験から、花びらを水に浮かべたりする中で、色が出てくることに気付いたり、子どもがやってみたいと思う仕掛けをしていく。

例)段ボールを使った製作では、段ボールカッターを使うことが始まりではあるが、なぜ、基地になったのかということ子どもに尋ねていく。また、「段ボールが固い時は、真ん中にカッターを刺したらいい」ということに気付いている子がいたら、振り返りで取り上げ「〇〇くんおもしろいことしたよね」「どうしてなの?」と聞いていき、子どもがしていることをまわりの子ども達にも伝えていく。



・保育者が前に出るのではなく、子どもの意見や考えを引き出しながら子ども同士の気付きや共感を大切にしながら共に生活を作っていく。

・言葉かけは、まずは子どもに聞いてみる「尋ねる」言葉を大切にすること。

・子どもが自分達ですすめている、自分達でやっていると思えるようにやっていることを受け入れ励まししながら、子ども達の考えを進められるようにする。「どうしたい?」「いい考えだね」と子どもの思いを引き出すように援助をしていく。

【『振り返り』について】

◎人と関わることや、友だちと遊ぶ楽しさを振り返りの中で共有することを大切にする。

・「これで遊びました」と、子どもが感想を言うだけでなく、自分の思ったことを話す時間にしていく。人と関わることや、友だちと遊ぶ楽しさを振り返りの中で共有することを大切にする。

・「今から振り返りをします」でなく、「今日何か楽しそうだったね。みんなに教え合おうよか」と等と言って始める。遊んでいる時に、「いい考えだね。皆に教えてあげてね」と声をかけていき、「誰としたの?」「〇〇君も教えて」「見てた人教えて」と等、子ども自身が話すことで広がっていくようにしていく。

・保育者が言わせたいことを意図して言わせすぎるのは保育者主導になってしまう。立派な事をした子だけが言うのではなく、どんなことでも「すごかったね」「いいことを発見したね」と受け止め、子どもに返していくと、子どもの声も出てくる。短いのはダメ、そんな言い方はダメ、といった印象を与えないようにしていき、子ども自身が、話せてよかった、友達の話を聞いておもしろかったと思うことを大切にしていこうにする。



「子どもをよく見る」「自分の反省をしっかりとる」ことが大切であり、記録をつけることで関わりや環境についての方向性が見えてくる

2. 記録について

保育を記録することは、一人一人の子どもの姿をよく見ることにつながり、子どもの興味や関心がより見えるようになる。

また、保育者自身の保育を振り返る機会となり、課題や次への保育の方向性を見出すことにもつながる。

以上の事をふまえて、記録について取り組んでいく。

・遊びの経過が書いてあると様子はよくわかるが、子どもが試したり工夫したり考えたり発見したりしている姿などを、焦点を絞って書いていくことも大切である。

例)『こんな風に試していた』『(大きい、小さいなど)を発見できて嬉しかった』など。

・発達に合った遊びを考えていくことが大切であり、誰が何をしようとしているかを良く見ていくことが大切である。『何ができた』ということなどを、あえて形に残そうとしなくてもよい。

・子ども一人一人の育ちや学びを書いていくことも大切である。

例)始めに『A君は元々こんな子である』と言うことを書いたうえで、得意なことや好きなことを通して自信を持って活動しているということを書いていくと、A君の育ちがよくわかるようになる。また、『B君のさりげないアドバイスも素敵である』という他児との関わりの部分も書いていくとよい。

・『こういう風に育った』ということだけでなく、保育者の思いも入れていくようにするとよい。どん

な気持ちで子どもを育てているのか、子どもに対する思いを入れることで、子どもを大事にしているということを発信していくことが大切である。



10月26日 研究指定園 公開保育・グループワーク、カンファレンスを実施しました

【公開保育研究テーマ】

倉梯幼稚園では、研究指定園として、子どもを主体とした遊びや活動、そのための環境構成、子どもの姿を見とるための記録等の園内研修を通じて、幼稚園教育要領に示された新たな乳幼児教育を学び、実践しようと取り組んでいます

【公開保育の視点】

- ◎環境と子どもの姿
- ◎保育者の関わりと子どもの姿

参加園

永福保育園	朝来幼稚園
岡田保育園	池内幼稚園
さくら保育園	橘幼稚園
相愛保育園	中舞鶴幼稚園
タンポポハウス	三鶴幼稚園
東山保育園	舞鶴幼稚園
八雲保育園	
うみべのもり保育所	※50音順
中保育所	
西乳児保育所	

グループワーク

参加者が、「環境と子どもの姿」「保育者の関わりと子どもの姿」の2つの視点で保育を見とり、そのテーマ毎にグループに分かれ、よかったところだけでなく、これからの保育で挑戦してみたいこと等も含めて協議し、話し合いを深めることができました。また、グループワークには実践者である倉梯幼稚園の保育者も参加することで、更に充実した内容となりました。グループワーク後には、話し合った内容を報告し合い、全体で共有することで学びを深めました。

【保育者の関わりと子どもの姿】

◎印象に残ったところ

- ・保育者の丁寧な言葉かけ。
- ・「いいね」「すごいね」など、共感の言葉や、子どもが遊びたいと思うような言葉かけ。
- ・一人一人の子どもを大切に保育。
- ・遊びや子ども同士をつなぐ声かけ。

◎自分だったらこうしてみたいと思うところや、次への展開

- ・(4歳児)カメラマンになりきって撮影ごっこをしていた遊びでは、実際に写真を撮って、子ども達に見せるのもおもしろいのではないかなと思う。



【環境と子どもの姿】

◎印象に残ったところ

- ・各コーナーにイメージしやすい写真が貼ってあり分かりやすくと感じた。文字が読めない子どもも写真だと分かりやすくてよい。
- ・アクセサリ屋さんのショーケースが窓枠であったり、保育者が子どもの興味・関心を見とって、環境を整えている。そのことによって、子ども達は遊び込んでいると感じた。
- ・(5歳児)遊びがながるコーナー作りがなされている。防犯カメラがあって、アクセサリ屋さんにやって来る泥棒や、泥棒を捕まえるための警察もいて遊びがながっていると感じる。
- ・アクセサリ屋さんの隣に制作コーナーがあり、遊びに必要な物がいつでも作れるような環境がなされていた。

◎自分だったらこうしてみたいと思うところや、次への展開

- ・(5歳児)ふり返りにて

「アクセサリ屋さんに泥棒が入ったら困るから」とカギを作ったことを話す子がおり、遊びがながっているのだと感じた。警察や泥棒役の子どもにも話を聞くことで、より遊びがながるようになるのではないかと考える。

・クラス内だけでなく、園中に牢屋があったり、園中を警察が泥棒を追いかけるなど、クラスの垣根を越えて遊ぶ環境も楽しいかもしれない。



神代千恵子先生 カンファレンス

◎6月に初めて倉梯幼稚園に来させていただき園の保育や子ども達の姿を知ることができた。

8月には、記録について研修を行った。記録を書くことで一人一人の子どもをよく見ることにつながり、保育者それぞれの個性も出た記録が見られた。10月には園内の環境が変わり、それにともない指導案も変わってきた。



◎保育者が、遊びを楽しめていない子どもをどんなふうにとらえていくのか。子どもをよく見るといふところに、つなげていってほしい。

◎子ども達が笑顔になる為にはどうすればよいのかと思ったら、もう一度幼稚園教育要領を見直してほしい。

◎幼稚園教育要領の総則には、保育者は幼児教育において、何をしないといけないのかということが、しっかりと書かれていると思う。

◎「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10の項目にある主体性、というところをふまえながら、子どもをどんな風に見ていったらいいか考えていくと、自分自身の保育について見直すことができると考える。

◎保育全体を振り返り、子ども一人一人を振り返るために、記録を書くことは大事であると言える。

◎子ども達をどんな子どもに育てたいか、目標を明確に持つことが大切であると思う。

つづき

◎子ども自身がよく見て、よく聞き、よく話し、よく考え、よく遊ぶ子を育ててほしいと考える。
 ◎振り返りで自分を出して話すことは、とてもよいことだと言える。5歳児クラスの振り返りは、保育者が子ども達の思いを受け入れていて、とてもよかった。
 ◎振り返りは、長くなり過ぎない方がよいかもしれない。

例「よく遊んだね。知らない子もいるから教えて。」「準備しておくものあるかな？明日準備しておくね。」などと言葉をかけ、子どもの気持ちをよく見て、寄り添っていくことが大切ではないか。

◎行事について

子どもが主体的に活動するためにはどんな行事がよいのか。子どもと保育者が一緒に考えていくことが大切ではないかと考える。



北野幸子先生 カンファレンス

乳幼児教育には教科書はなく、保育は保育者が子どもと一緒に考えていくものだと考える



【これからの乳幼児教育】

◎今、日本中で進めようとしていることとして、自園の発展のために、外部の講師とともに、自分の思いを持ちながら保育を公開し、1年、2年、3年のスパンで継続的に園内研修を繰り返し、かつ研究発表会の時に、研究成果を地域の園に還元する。そういうシステムが教育委員会の予算で、公立の高校、中学校、小学校、幼稚園に保障されている。
 ◎保育を探究し続ける心のある人か、そうではない人かを問われている。実践という、唯一無二の方法があるわけではないが、変わるという気持ちを持つことが大切だと考える。
 ◎時代が変わると、子ども達も社会も変わり保育も変わらざるを得ない。地域に子どもがいらないという現状の中、保育園や幼稚園が保障しなくてはならないのではないのか。
 ◎今、世界中で3歳以下の無償化が進んでいる。フランスでは、2019年の秋に3歳以降義務教育になることが決まった。これからの時代は、自己を発揮していつたり、創意工夫したりする子どもを育てていくことが必要だと考える。

【保育について】

◎乳幼児教育には教科書はなく、保育は保育者が子どもと一緒に考えていくものだと考える。
 ◎予想通りに進まないほうが、子どもの思考がたくさん生まれるのではないか。
 ◎遊びや活動は目的化しないようにすることが大切だと考える。
 ◎子どもが興味を持って、自らやってみたくて、できるように努力したり、友だちと教え合いながら活動する。乳幼児期は、コンテンツにしばられない、一生涯の学習の基礎であると考えられる。
 ◎内容通り、手順通りの遊びでは、子どもの思考力は育たないと考える。クラスの中で、手順通りであったり、使い方が固定されているなどの玩具や遊びや、映像刺激が多すぎないか考えてほしい。
 ◎5歳児クラスのピンボールのゲームは、か



まぼ板を固定しないから向きが変えられたり、自分でアレンジできて面白く感じた。

◎0、1、2、3歳の保育室は、五感を意識し

てほしい。色、形、動き、音、肌触りという観点からバランスはどうかということを考えてほしいと思う。

◎4、5歳は製作できる環境や、調べたり、比べたり、測ったりといった科学的探究のコーナーがあるとよいと感じた。

◎環境について悩んだ時は、子どもと一緒にどんな風に変えていくかを考えるとよいのではないか。環境の構成だけでなく、子どもと一緒に環境の再構成をしていくことが大切だと考える。

◎子どもが自分で工夫することや予測不能のことなどを、保育者も楽しみながら考えてほしいと思う。

◎子どもの遊びの発展には、環境の再構成にどれだけ子どもを巻き込めるかが大切であり、それにより遊びは変わっていくと考える。

◎遊びのコーナーの中にイメージや役割、ストーリーといったものがどれくらいあるのか。保育者がコーナーのイメージやストーリーを口に出して言うと、周りの子ども達ともつながっていくのではないか。

◎子どもが主語になるような言葉、行動と心の部分を言語化することが大切だと考える。

